学校訪問

部活動

第七中学校

西尾久4－30－28

生徒が部活動を紹介します

美術部

▲昨年の三年生を送る会での作品

▲部活動の様子

第七中学校美術部は、男子3名、女子9名で活動しています。活動日は、毎週火曜日と少ないですが、部員同士仲が良く、いつも楽しく活動しています。

活動内容は、基本的には自由な題材で絵を描くことですが、主に学校内の掲示ポスターを描いています。

昨年度は、運動会のポスター、3年生を送る会のメッセージカードの台紙絵を描きました。3年生を送る会の絵は、先生方とも協力し、私たちが気づかなかったアイデアの作品を仕上げることができました。七中の美術部は先生方をはじめ、部員同士が一丸となって協力して活動してきたので、自分たちの力を十分発揮することができたと思います。

◀部活動の様子

また、普段の活動では、和やかな雰囲気の中、楽しく絵を描いています。部員同士がお互いの絵を見せ合うことで、改善点を見つけ、各自の画力の向上に繋げています。

特に先輩は、学年を超えて対話や絵の鑑賞を行ってきました。これからは私たちも互いに交流を図り、皆が楽しみながら刺激し合うことを通して、力を伸ばしていきたいと思います。

執筆　部長　2年　相良光

学校自慢

峡田小学校

荒川3－77－1

学校の自慢を児童が紹介します

▲6年生のマーチング

▲運動会でのぴっつん

峡田小学校の自慢の一つに、「峡田レンジャー」と「ぴっつん」というオリジナルキャラクターがいます。その中で、はじめに「ぴっつん」について紹介します。「ぴっつん」は峡田小学校の創立二十周年の記念に、校舎内にある「えんぴつ塔」をモチーフにして作られました。頭に峡田小の校帽をかぶっていて、足はえんぴつの形になっています。ほおには二十周年記念の20と書かれています。峡田小の学校行事では、代表委員がこの「ぴっつん」になって登場し、そのかわいらしい姿に、全校のみんなが笑顔になります。先日の運動会では、頭にはちまきをまいて、運動会バージョンで登場しました。

また、峡田っ子は元気なあいさつをして、一日を気持ちよく過ごしています。毎朝、6年生を中心とした縦割り班であいさつ運動を行っています。先生やお客様にも先にあいさつすることを心がけ、明るい雰囲気をつくっています。

そして、6年生のマーチングバンドも自慢の一つです。一人一人がきちんと自分の楽器の音を出しているのでしっかりと聞こえます。児童朝会のときは、早く登校し、音出し練習をします。朝会後、全校児童が6年生の演奏に合わせて元気に行進します。

このように峡田小は笑顔と元気のあふれる学校です。この笑顔と元気が絶えない学校であってほしいと思います。

執筆　6年　齊藤あかり　宮本杏　西野峻平　飯山巧大

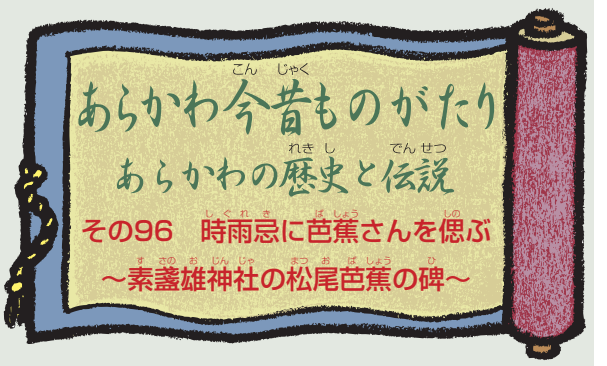
8月の東日本大震災の被災地訪問を通して、「自分の学校だけではなく、荒川区全体の防災について話し合いたい」という生徒の自発的な意見から開催されました。

実際に災害が起きた時に、どのような判断をするべきかを考える「クロスロード・災害対応ジレンマゲーム」や、防災部先進校の説明から各学校でどのような取り組みができるかをディスカッションするなど、意見交換の場になりました。

続・下町の空想画家　小松崎茂展

南千住生まれの画家・小松崎茂氏の生誕100年を記念して、企画展を開催します。

期間　12月6日（日）まで
※月曜休館。11月23日（祝）は開館、24日（火）は休館
時間　午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
会場　荒川ふるさと文化館1階企画展示室
入館料　100円（区内在住の中学生以下は無料）
問合せ　荒川ふるさと文化館☎（3807）9234



俳句のまち荒川区

平成27年3月、奥の細道千住荒川サミットの時に「荒川区俳句のまち宣言」が行われたことを覚えているかい？

荒川区は俳句が盛んで、区内で色んな俳句の催しが開かれているね。そろそろ「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」参加チームの募集が始まるけど、大会用の俳句作りの準備に取りかかったお友だちもいるんじゃないかな。

10月12日に建てられた碑

南千住の素盞雄神社には、「おくのほそ道」の一節、「行く春や鳥啼魚の目は泪」の句、そして芭蕉さんの座像を刻んだ「松尾芭蕉の碑」（区指定文化財）があるね。この碑が建てられたのは、文政3年（1820）10月12日。どうして、この日に建てたのか、理由を知っているかい？

確か芭蕉さんが奥の細道に旅立ったのは「弥生も末の七日」つまり3月27日。結びの地の大垣（岐阜県）に着いたのは8月21日のことだし、この日は、一体何の日だったんだろう？　実はね、10月12日は「時雨忌」「翁忌」「芭蕉忌」と呼ばれる芭蕉さんの命日なんだ。何と秋の季語にもなっているくらいだから、良く知られていたんだね。

芭蕉さんが亡くなったのは、元禄7年（1694）のこと。今のカレンダーでは11月28日だから、少し寒くなってきた頃に、旅先の大坂（今の大阪）で病気に罹り、お弟子さんたちに看取られて息を引き取ったそうだ。その後、遺言によって膳所（滋賀県大津市）の義仲寺というお寺に葬られたんだって。最後に詠んだ句は「旅に病で夢は枯野をかけ廻る」。旅を一生の住処として俳句に打ち込んだ芭蕉さんらしい句だよね。

芭蕉さんが亡くなって126年の歳月がたっても、芭蕉さんを尊敬し俳句を愛する心は千住の人々に引き継がれていた。千住から奥の細道へと旅立った芭蕉さんの偉業を称え、追悼の意味を込め、その姿と「おくのほそ道」を刻んだ碑を建てたんだよね。芭蕉さんを描いたのは関屋（足立区）の絵師で俳人の建部巣兆さん。文字を書いたのは、巣兆さんの義理の兄弟、書家としても有名だった金杉（台東区）の儒学者・亀田鵬斎さんだ。

▶素盞雄神社の松尾芭蕉の碑

憧れの人芭蕉さん

巣兆さんは、芭蕉さんに強い憧れを抱いていた。何枚も芭蕉さんを描き、義仲寺にもお参りして時雨会という句会にも参加した。そして、芭蕉さんのために碑を建てたいと思っていたようだ。けれど、芭蕉の碑の建立よりも6年前の文化11年（1814）11月に亡くなってしまったんだ。巣兆さんの生前の願いも込めて建てられたのが、松尾芭蕉の碑だったんだね。

はせを忌や笑ひあふたる破れ傘　巣兆（「時雨会集成」）

問合せ　荒川ふるさと文化館☎（3807）9234

古紙配合率70%再生紙を使用しています。